

鹿児島県出水水平野におけるツル類の基礎調査 第11報

1985, 86年度に出水・阿久根地方で観察された鳥類

柳澤 紀夫^{*1}・藤村 仁^{*2}・安部 直哉^{*2}・内田 康夫^{*3}・藤井 格^{*4}

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 11.

The Bird Record on Izumi and Akune, Kagoshima in winter of
1985 and 1986

Norio Yanagisawa^{*1}, Hitoshi Fujimura^{*2}, Naoya Abe^{*2},
Yasuo Uchida^{*3} and Tadashi Fujii^{*4}

はじめに

鹿児島県出水水平野はツル類の渡来地として国の特別天然記念物に指定されており、冬期には多数のツル類が越冬していることで、有名である。また阿久根地方は、現在は指定地から除外されているが、かつては国の天然記念物指定地域であり、今も主にナベヅルが少なからず渡来している。

これらのツル類を総合的に調査するべく、1985年10月から「国際保護鳥ナベヅル・マナヅルの保護管理手法に関する調査」が実施されている。ここでは、ツル類の調査中、あるいは調査の合間に観察、記録した鳥類についてまとめた。

当地方の鳥類についてのまとまった報告としては、下村(1955)、北九州大鶴研究会(1961)、柳沢(1970)、叶内他(1977)などがあるし、環境庁(1976年以降)による毎年度の標識鳥やロードセンサス等の報告がある。また鹿児島県(1987)は県内全体の目録であるが、当地方の記録も多数記載されている。これらの他には、稀種の観察報告が、鳥関係の雑誌や会報などに散見される。

これら文献と今回の調査の結果をまとめてみると、出水・阿久根地方における各種鳥類は257種が記録された。

*1 財団法人日本鳥類保護連盟, 東京都渋谷区宇田川町37-10-405, Udagawa-cho 37-10-405, Shibuya, Tokyo. Japanese Association for Preservation of Birds.

*2 国立科学博物館附属自然教育園(非常勤), Institute for Nature Study, National Museum (TDY).

*3 練馬区中村1-11-2, Nakamura 1-11-2, Nerima, Tokyo.

*4 広島県双三郡三和町敷名4704-1, Shikina 4704-1, Miwa-cho, Futami-gun, Hiroshima Pref.

調査時期

調査は、1985年10月から始められ、1985年度の冬期に延36日、1986年度の冬期に延56日にわたって行なわれた。調査月日については表1に示した。主要な調査はツル類についてであるが、各回の調査者数はそれぞれ各5～7名と少なくないため、観察種類も少なくない。

表1 調査月日

1985 年度	1986 年度
1985. 10. 22～28	1986. 10. 25～28
11. 21～28	11. 6～15
12. 17～24	12. 6～18
1986. 1. 26～31	1987. 1. 6～12, 18～21
2. 20～26	2. 6～14
	3. 10～18

調査範囲

北緯32度6分10秒、東経130度16分30秒、鹿児島県出水市大字荘字瀧に位置するツル類の塘、給餌地を中心に、北は出水郡高尾野町西辺田、南は出水郡高尾野町の高尾野ダム、東は出水市大川内の高川ダム、西は阿久根市佐瀧におよぶ、南北約15km、東西約20kmにおよぶ範囲を調査範囲としている。行政的には鹿児島県出水市、出水郡高尾野町、同野田町、阿久根市の4市町を含んでいる。調査範囲がこのように広いのは、ツル類の分散状態を調査するために、各月1回程度はこの範囲をチェックしているためである。この範囲は、他の報告の調査範囲より広く、短期間の調査であるにもかかわらず、記録種類は少なくない。

調査地の環境

出水平野は、北側は八代海に面し、東側に矢筈岳、南側に鉢立山、紫尾山などの山群にかこまれ、南から北へゆるく傾斜している。平野の北西には笠山を中心とする山塊があり、西側はゆるい丘陵をはさんで、脇本、折口、多田、鶴川内などに続き、さらに阿久根市街に続いている。

当地域の環境は、出水、阿久根地域とも海岸や河川に近い平坦地は水田として利用されている。やや乾いた場所や丘陵地は住宅地、畑地として利用されており、畑は豆類、野菜類のほか、植木畑や柑橘類の果樹園であることも多い。周辺の山地は主にスギ、ヒノキ、サワラなどの植林地と竹林が多く、スダジイ林など常緑広葉樹林は少ない。常緑広葉樹はむしろ平野の住宅の屋敷林にある。海岸は、出水平野の北側では高いコンクリート堤防が造られており、干潟は米ノ津川河口、高尾野川河口、江内川河口、それに福ノ江にある。江内川河口以西は山が海までせまっており、崖地が続いている。海岸線は黒之瀬戸あたりから南下し、脇本から折口にかけて砂浜があるほかは、その南もまた崖地である。阿久根の中心部はコンクリート護岸や港があり、それ以南はまた崖地になっている。

調査方法

調査員が、調査範囲で認めた種を全て記録することをたてまえとした。種名の未確認種は含めていない。

調査結果

表2は前述の諸文献と本調査をもとにした出水・阿久根地方の鳥類目録である。今回の調査期間中に記録した計154種は、表2に○印をして示した。10月下旬の調査では秋期の渡り途中のものと思われるものも少なくないが、冬期間のみの調査であることを考えると、当地がツル類の渡来地として貴重であるのみならず、冬鳥の渡来地、越冬地としてもきわめて重要な場所であることがわかる。

以下に、一部の種について概説した。

●アカエリカイツブリ (*Podiceps grisegena*)

期間中4種のカイツブリが記録されたが、この4種のうちでは本種は稀な種といえよう。

●オオミズナギドリ (*Calonectris leucomelas*)

1986年10月に東干拓地上空を飛んでいる1個体を観察した。東支那海に面する阿久根地区では、もっと記録されてもよいと思われる。

●カツオドリ (*Sula leucogaster*)

東支那海に面する阿久根地区では、もっと記録されてもよい種と思われる。

●ヒメウ (*Phalacrocorax pelagicus*)

阿久根港外ではウミウがよく見られているが、本種については当地域からの初記録である。

●ムラサキサギ (*Ardea purpurea*)

本種は沖縄以外ではかなり稀な種といえるが、当地では比較的よく見られており、今回の記録は8回目の記録と思われる。

●コハクチョウ (*Cygnus columbianus*)

ハクチョウ類は過去に2種が記録されている。本種の今回の記録が当地域としては2回目と3回目の記録である。

●アカツクシガモ (*Todorna ferruginea*)

本種の今回の記録は当地域としては2回目の記録である。1985年10月23日に2番と思われる4羽を観察したが、10月25日以降には3羽しか見つかっていない。主に東干拓地ですごしていた。

●オオノスリ (*Buteo hemilasius*)

本種は当地域としては新記録で、折口駅前の田圃で発見され、その後同個体と思われるものが荒崎地区に出現している。

また本種は、日本全域でも極めて少数の記録があるのみの稀種。シーボルトが帰国の際に持帰った標本類の中に含まれており、九州で彼が得たものと考えられている。その後、対馬で記録されており、愛知県1972年(死体拾得)、広島県1983年、山口県1984年、などの記録がある。

●チュウヒ (*Circus aeruginosus*)

当地には、毎年定期的に渡来している。両年度とも、頭の黒い雄、ほか数個体が記録されている。主に東干拓地、西干拓地、江内川沿いで見られている。

●コチョウゲンボウ (*Falco columbarius*)

ハヤブサ類としては当地域では4種が記録されている。当地で最も数多く見られているのはコチョウゲンボウで、次いでハヤブサである。1986年度には本種の若鳥と思われる2羽が越冬した。主に東・西干拓地で見られていた。

●クロヅル (*Grus grus*)

当地域ではこれまで7種のツル類が記録されているが、この7種は我国で記録されているツル類の全てでもある。

本種の当地域での記録は、1928年に1羽、1929年1羽、1936年2羽、1937年2羽、1938年3羽、1939年3羽が記録されている。その後記録は、一次途絶えていたが、1961年に1羽が記録されて以降ほぼ定期的に渡来している。最高羽数は1980年の8羽。

当地域以外では、いずれも冬鳥として、北海道(濤沸湖1970年, 1981年, 鶴居村1971年, 苫小牧1980年), 茨城県1928年, 静岡県(小笠郡高松川河口 1977年, 小笠郡弁財天川河口 1978年), 兵庫県 1977年, 鳥取県 1964年, 山口県(熊毛町1959年), 徳島県1973年, 香川県1974年, 福岡県 1976年, 長崎県, 沖縄県 1955年, などの記録が知られている。

●タンチョウ (*Grus japonensis*)

当地域では、1936年1羽、1937年1羽、1939年1羽、1943年、それに1967年1羽(幼鳥), が記録されているのみで、今回の調査期間中には記録されていない。

当地域以外では、北海道では周年生息し、繁殖もしているほか、旅鳥、冬鳥として青森県 1929年、1935年、1941年、岩手県1974年、宮城県1922年、1974年、福島県1949年、茨城県1974年、千葉県1976年、新潟県 1935年、(佐渡1947年、1974年)、石川県、福井県1969年、京都府1974年、1975年、滋賀県1943年、岡山県1974年、鳥取県1973年、島根県1973年、山口県、徳島県1949年、長崎県1885年、などの記録が知られている。

●ナベヅル (*Grus monacha*)

当地域で最も個体数の多いツル類である。当地域のほかの定期的渡来地としては山口県熊毛郡熊毛町があるが、個体数としては当地域の100分の1以下である。

不定期の渡来例としては、いずれも旅鳥か冬鳥で、鹿児島県では各地に記録があるほか、北海道(札幌 1874年, 大樹町1981年)。秋田県1981年、東京都1874年、千葉県1910年、新潟県1931年、愛知県1976年、石川県1920年、1983年、和歌山県1985年、兵庫県1968年、岡山県1939年、鳥取県1934年、島根県1930年、1978年、徳島県1980年、愛媛県1968年、1974年。高知県1969年、1972年、1973年、1974年それに1980年以降ほぼ毎年。大分県1976年、福岡県、佐賀県、長崎県、対馬、壱岐、熊本県などには多くの記録がある。

●カナダヅル (*Grus canadensis*)

我国には、冬鳥として迷行してきた少数の記録があるだけの稀種であるが、当地域では1963年1羽、1973年1羽、1975年1羽、1977年1羽、1979年1羽、1980年2羽、1982年4羽、1983年2羽、などの記録がある。しかし、調査期間中には記録がなかった。

当地域以外では、北海道(鶴居村1970年、1980年、稚内市1978年、苫小牧市1979年)、千葉県富津市1986年、愛知県一色町、三重県松阪市1982年、山口県阿知須町1982年、などが知られている。

なお、本種の日本に渡来する亜種は未だ不明である。国内で採集された標本としては、山階鳥類研究所に北海道稚内市豊別(1978年10月7日)の性別不明幼鳥の1体があるのみである。

●マナヅル (*Grus vipio*)

当地域には、最近10年では毎年1000羽前後の渡来数があり、我国では唯一の定期的渡来地である。

不定期の渡来例としては、いずれも旅鳥か冬鳥で、鹿児島県では、種子島1917年、菱刈町1985年、国分市

1986年、金峰町1986年などがある。その他の地方では、北海道（千歳1971年、阿寒町1979年）、秋田県1978年、茨城県1986年、埼玉県、東京都1977年、新潟県佐渡1981年、福井県1972年、石川県1973年、富山県1945年、静岡県（大井町1977年、清水市1979年、下田市1979年、袋井市1979年）、愛知県1979年、京都府、兵庫県、鳥取県、岡山県1949年、島根県（松江市1936年、平田市1976年、出雲市1976年）、山口県1960年、1965年、1973年、1974年、高知県1969年、1972年、1973年、愛媛県1972年、1975年、福岡県1935年、長崎県1935年、対馬1963年、1964年、熊本県1972年、1987年、宮崎県1968年、沖縄県1968年、南大東島などが知られている。また、当地域への渡来の往復に、長崎県各地、熊本県などは通過することが知られている。

●ソデグロヅル (*Grus leucogeranus*)

世界的に個体数の極めて少ない、稀種。今回の調査期間中には渡来をみなかったものの、当地域では、1959年幼鳥1羽、1960年幼鳥1羽、1982年成鳥1羽の記録があり、いずれもその一冬を越冬している。

当地域以外の記録としては、北海道（濤沸湖1969年、塘路湖1977年7月、木古内1977年11月）、野付半島1985年5月、石川県1961年4月、島根県1980年、沖縄県1969年、などがある。なお、島根県のは、4月11日に松江市で記録され、5月8日以降は出雲市、5月18日以降は大田市で見つけられており、8月30日山口県下関市で捕獲保護され、宇部市にある動物園で飼育されていた。また沖縄県のは指をケガして捕獲保護され、鹿児島市の動物園で飼育されていた。現在はアメリカ合衆国にあるツル財団で増殖用の種鳥として飼育されている。

●アネハヅル (*Anthropoides virgo*)

今回の調査期間中には、1986年度に2羽が記録されている。この内の幼鳥1羽は、当地域に渡来した第1陣のツル（この年はマナヅル8羽であった）群中に混じていたもので、越冬後、4月1日に残留していた約80羽ほどの幼鳥ばかりからなるナベヅル群中に混じていた。この年最も早く渡来し、最も遅くまで、約半年にわたって生活していたことになる。また、他の1羽は成鳥で、12月下旬に渡来したのと思われ、1月調査時に記録されている。そして2月の帰群第2陣とともに帰北してしまっている。成鳥と幼鳥の生活の違いの一部が知ることのできる興味ある例といえよう。

この記録以外に、当地域では1970年1羽、1971年1羽、1974年1羽、1981年1羽、などの記録がある。

さらに当地域以外では、北海道（石狩、釧路1974年、札幌1976年、苫小牧市1986年）、青森県1974年、岩手県大船戸市1978年、宮城県1922年、石川県、東京都八丈島1925年、静岡県、島根県1976年、京都府宇治市1974年、和歌山県日高町1983年、広島県1976年、山口県周東町1982年、愛媛県松山市1983年、熊本県1973年、鹿児島県徳之島1965年、などが知られている。

●ナベヅル×クロヅル (*G. monacha* × *G. grus*)

当地域のツル関係者にナベクロと呼びならわされている、ナベヅルとクロヅルとの交雑個体。両親の性別は二通りの組合せがある。1960年代後半からぼつぼつその姿を見るようになった。今回の調査期間中にも渡来しており、1986年度にはクロヅル雄とナベヅル雌が2羽の幼鳥をつれていた例がある。このほかに5羽のナベクロヅルが渡来していた。

また、1986年度では、このナベクロヅル雄とナベヅル雌による番が、幼鳥1羽をつれていた。

●シマクイナ (*Porzana exquisita*)

当地域では6種のクイナ・パンの仲間が記録されていたが、1985年度11月及び1月にみられている本種は、当地域での新記録種である。古浜と東干拓地の間にある水路と給餌地内の潮止の池で見られた。

●ムクドリ (*Sturnus cineraceus*)

当地域では、冬期には大群ではないが見ることができる。九州では個体数の少ない種であるが、当地域は本種の比較的多い場所であろう。

●ホシムクドリ (*Sturnus vulgaris*)

我国で初めて本種が見つけられたのは、1969年の当地域である。その後もたびたび見られており、今回の調査期間中の1985、1986年度とも1～数羽が見られている。

●コクマルガラス (*Corvus monedula*)

我国では冬鳥で、1970年代に入って記録例が増えており、現在では、定期的に渡来している。黒色型と淡色型と灰色型が見られている。

●ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*)

我国では冬鳥で、1970年代に入って記録例が増えており、毎年定期的に渡来している。今回の調査期間中も、調査地域のあちこちに見られており、個体数も両年度とも1000羽をこえていた。

本調査には多くの方々のご協力をいただいている。調査について何かとご指導をいただいた国立科学博物館附属自然教育園の方々、鹿児島県教育庁文化課の方々、ツルについてご教示をいただいた出水市在住のツル給餌人又野末春氏、この調査を手伝っていただいた、俣田実、百瀬邦和、荻原稔、岡田文寿、小田文弘、寒河江豊、佐藤政明、関健志、田頭吉一、上木泰男の皆さんに、厚くお礼甲し上げる。

摘 要

1. 鹿児島県出水平野では、ツル類7種をはじめ計257種が記録されている。
2. 本調査期間中の、1985年10月から1986年3月、1986年10月から1987年3月までの間に、各134種、121種、計154種を記録した。

文 献

○出水地方の鳥類について

- 鹿児島県. 1987. 鹿児島県の野鳥. 99頁. 鹿児島県.
環境庁・(財)山階鳥類研究所. 1976—1986. 鳥類観測ステーション運営.
叶内拓哉・森岡照明. 1977. 鹿児島県荒崎周辺地区の鳥. 野鳥42巻12号.
北九州大鶴研究会. 1961. 最近の荒崎付近の野鳥. 九州野鳥3号.
日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録改訂第5版. 学研.
下村兼史. 1955. 荒崎の鳥. 鳥14巻66号.
柳沢紀夫. 1970. 荒崎・冬の鳥の記録. 野鳥35巻10号.

○ツル類の記録について

- 青森県. 1978. 青森県の鳥獣. 青森県.
愛知県. 1983. 愛知の野鳥. 愛知県.
千葉県. 1975. 千葉県鳥類目録. 千葉県.
鳥類同好会. 1970. 兵庫の鳥. 兵庫県.
橋本太郎. 1983. 三重県鳥類の分布と生態. (自家本).
比婆科学教育振興会. 1983. 広島県の鳥. 中国新聞社.
広島県. 1980. 広島県の野鳥. 広島県.

- 本間義治. 1981. 新潟県鳥獣図鑑. 新潟日報事業社.
- 石原保. 1982. 四国の野鳥誌. 築地書館.
- 京都府. 1978. 京都の野鳥. 京都府.
- 宮崎県. 1971. 宮崎の野鳥. 宮崎県.
- 長崎県野鳥の会. 1980. 長崎県の野鳥. 同会.
- 日本野鳥の会石川支部. 1983. 写真集北国の野鳥. 誠文堂新光社.
- 大分県. 1982. 大分県の野鳥. 大分県.
- 岡山県. 1974. 岡山県の野鳥. 岡山県.
- 佐賀県. 1978. 佐賀の野鳥. 佐賀県.
- 特別天然記念物タンチョウ保護30周年記念事業実行委員会. 1982. タンチョウその保護に尽した人々. 同会.
- 鳥取県. 1980. 鳥取県の野鳥. 鳥取県.
- 富山県. 1977. 富山の鳥獣. 富山県.
- 内田映. 1982. 島根県の鳥類. (自家本).
- 山口県. 1976. 山口県の野鳥. 山口県.

付 記

本文に示したほか、最近のツル類の記録は千羽・安部（1987, 自然教育園報告. 18:23-31）にも掲載されている。

種 名	85	86	85	86	85	86	86	87	86	87	86	87
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
34. ヒシクイ <i>Anser fabalis</i>												
35. サカツラガン <i>A. cygnoides</i>												
36. オオハクチョウ <i>Cygnus cygnus</i>												
37. コハクチョウ <i>C. columbianus</i>	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
38. アカツクシガモ <i>Tadorna ferruginea</i>	○		○		○		○		○			
39. ツクシガモ <i>T. tadorna</i>												
40. オシドリ <i>Aix galericulata</i>												
41. マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
42. カルガモ <i>A. poecilorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
43. コガモ <i>A. crecca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
44. トモエガモ <i>A. formosa</i>												
45. ヨシガモ <i>A. falcata</i>	○								○			
46. オカヨシガモ <i>A. strepera</i>	○		○		○	○	○	○	○	○		○
47. ヒドリガモ <i>A. penelope</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
48. アメリカヒドリ <i>A. americana</i>	○						○					
49. オナガガモ <i>A. acuta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
50. シマアジ <i>A. querquedula</i>	○											
51. ハシビロガモ <i>A. clypeata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
52. ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>												
53. キンクロハジロ <i>A. fuligula</i>			○		○	○				○		
54. スズガモ <i>A. marila</i>	○			○	○	○						
55. ピロードキンクロ <i>Melanitta fusca</i>												
56. ホオジロガモ <i>Bucephala clangula</i>												
57. ミコアイサ <i>Mergus albellus</i>												
58. カワアイサ <i>M. merganser</i>												
59. ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>			○		○		○	○	○	○		○
60. トビ <i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
61. オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla</i>												
62. オオタカ <i>Accipiter gentilis</i>					○							
63. ツミ <i>A. gularis</i>												
64. ハイタカ <i>A. nisus</i>								○				○
65. ケアシノスリ <i>Buteo lagopus</i>												
66. オオノスリ <i>B. hemilasius</i>					○		○		○			
67. ノスリ <i>B. buteo</i>			○		○							○

種名	85年	86年	85年	86年	85年	86年	86年	87年	86年	87年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
170. ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>										
171. アリスイ <i>Jynx torquilla</i>		○								
172. アオゲラ <i>Picus awokera</i>		○						○		
173. オオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos</i>										
174. コゲラ <i>D. kizuki</i>				○				○		
175. ヒメコウテンシ <i>Calandrella cinerea</i>										
176. コヒバリ <i>C. rufescens</i>										
177. ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
178. ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>	○	○								
179. ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	○		○					○		○
180. コシアカツバメ <i>H. daurica</i>	○		○	○						○
181. イワツバメ <i>Delichon urbica</i>	○		○	○	○		○	○	○	○
182. ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>										
183. キセキレイ <i>M. cinerea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
184. ハクセキレイ <i>M. alba</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
185. セグロセキレイ <i>M. grandis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
186. ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>	○		○		○	○	○	○	○	○
187. セジロタヒバリ <i>A. gustavi</i>										
188. ムネアカタヒバリ <i>A. cervinus</i>	○						○	○	○	
189. タヒバリ <i>A. spinoletta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
190. サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>										
191. ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
192. モズ <i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
193. アカモズ <i>L. cristatus</i>										
194. キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>								○		○
195. ヒレンジャク <i>B. japonica</i>								○		○
196. カワガラス <i>Cinclus pallasi</i>		○	○	○	○	○	○	○		
197. ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>										
198. オガワコマドリ <i>Erithacus svecicus</i>										
199. ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>						○		○		
200. ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>	○		○	○	○	○	○	○	○	○
201. ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>	○		○							
202. イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	○		○	○		○	○	○		
203. トラツグミ <i>Turdus dauma</i>							○			

種名	85年	86年	85年	86年	85年	86年	86年	87年	86年	87年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
204. アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>								○		
205. シロハラ <i>T. pallidus</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
206. ツグミ <i>T. naumanni</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
207. ヤブサメ <i>Cettia squameiceps</i>										
208. ウグイス <i>C. diphone</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
209. シマセンニュウ <i>Locustella ochotensis</i>										
210. コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>										
211. オオヨシキリ <i>A. arundinaceus</i>										
212. センダイムシクイ <i>Phylloscopus occipitalis</i>										
213. キクイタダキ <i>Regulus regulus</i>	○									
214. セツカ <i>Cisticola juncidis</i>	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
215. キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>										
216. オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>										
217. エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>										
218. エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○ ○	○ ○	○ ○					○
219. ツリスガラ <i>Remiz pendulinus</i>	○	○	○ ○	○ ○	○ ○					
220. ヤマガラ <i>Parus varius</i>	○									
221. シジュウカラ <i>P. major</i>	○	○						○ ○		○
222. メジロ <i>Zosterops japonica</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					
223. ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					
224. コジュリン <i>E. yessoensis</i>										○
225. ホオアカ <i>E. fucata</i>		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
226. コホオアカ <i>E. pusilla</i>										
227. カシラダカ <i>E. rustica</i>	○	○	○ ○	○ ○	○ ○					○
228. ミヤマホオジロ <i>E. elegans</i>		○	○ ○	○ ○	○ ○					○
229. ズグロチャキンチョウ <i>E. melanocephala</i>										
230. ノジロ <i>E. sulphurata</i>	○									
231. アオジ <i>E. spodocephala</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
232. クロジ <i>E. variabilis</i>										
233. シベリアジュリン <i>E. pallasi</i>										
234. オオジュリン <i>E. schoeniclus</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○
235. サバンナシトド <i>Passerculus sandwichensis</i>										
236. アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					
237. カワラヒワ <i>Carduelis sinica</i>	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○					○

種名	85年	86年	85年	86年	85年	86年	86年	87年	86年	87年	86年	87年
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	種	種	種	種	種	種
238. マヒワ <i>Carduelis spinus</i>		○	○									
239. ベニヒワ <i>Acanthis flammea</i>												
240. ベニマシコ <i>Uragus sibiricus</i>												
241. ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>			○					○				
242. コイカル <i>Eophona migratoria</i>	○	○			○		○	○				
243. イカル <i>E. personata</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
244. シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>		○			○	○	○	○	○	○		○
245. ニュウナイスズメ <i>Passer rutilans</i>		○										
246. スズメ <i>P. montanus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
247. コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>												
248. カラムクドリ <i>S. sinensis</i>												
249. ホシムクドリ <i>S. vulgaris</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
250. ムクドリ <i>S. cineraceus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
251. ハッカチョウ <i>Acridotheres cristatellus</i>												
252. オウチョウ <i>Dicrurus macocercus</i>												
253. カケス <i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
254. コクマルガラス <i>Corvus monedula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
255. ミヤマガラス <i>C. frugilegus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
256. ハシボソガラス <i>C. corone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
257. ハシブトガラス <i>C. macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
計	101種	41種	95種	83種	93種	81種	90種	86種	95種	95種		82種
合計	1985年度 134種		1986年度 121種		通算 154種							